

平成 30 年度当初予算に向けた検討の論点（案）

◎地方創生・地域活性化

I J Uターンの推進、若年女性人口の流出抑制、インターンシップの充実等による若者の県内就職促進、ワーキングホリデー、若者向け情報発信の強化、小さな拠点の推進、公共交通の利便性向上、パートナー県政の推進、アートピアとつとりの推進

◎防災基盤づくり

支え愛マップづくりによる地域防災力の向上、福祉避難所の体制整備、災害時の受援・物流対策、災害情報の収集・伝達・発信機能の充実、原子力防災対策の計画的な推進、土木防災インフラの整備、中部地震からの復興

◎大山開山 1300 年祭

山の日記念全国大会や大山の魅力を発信する行事の開催（シーズンごとのコアイベントによる多様な魅力の発信）、大山山麓の様々な観光素材（水木しげるロードリニューアル等）と一体的な大山 1300 年祭の展開、地元企業との連携による大山ブランドの構築、西部圏域の観光客受入環境・体制整備

◎観光・交流

山陰道（鳥取西道路）開通、インバウンド拡大、「星取県」推進、農泊と自然・文化を活用した体験型ツーリズム、ユニバーサルツーリズム、まんが・アニメツーリズムの推進、鳥取砂丘コナン空港「空の駅」化、鉄道を活かした誘客（山陰 DC、「瑞風」、「あめつち」、「昭和」）、台湾花博出展を契機とした交流深化、米子鬼太郎空港の機能強化、ユネスコ世界ジオパーク再認定に向けた機運醸成及び魅力発信

◎スポーツによる活性化

東京オリ・パラに向けた国際スポーツ大会（スポーツクライミングアジア選手権 2018、卓球・世界カデットチャレンジ大会、2019 レーザー級世界選手権大会）の開催、全日本マスターズ陸上の開催、中長期を見据えた選手育成・環境整備、障がい者スポーツ鳥取モデルの構築、スポーツツーリズム、サイクルツーリズムの推進

◎産業振興・働き方改革

世界動向等を踏まえたものづくり分野への対応、第 4 次産業革命（AI、IoT 等）の実装に向けた展開、中小企業の経営基盤強化・生産性向上、事業承継の相談体制の全県展開、地域の中核企業の成長加速化、国内外の需要獲得強化、人材確保・育成と人手不足への対応、多様な人材の働きやすい労働環境整備、保育・医療・介護人材の確保、教職員の多忙解消、女性活躍・ワークライフバランスの推進

◎農林水産業振興

若者に魅力ある就業環境の整備、農業産出額の向上、肉質日本一「鳥取和牛」の飛躍（次世代スーパー雌牛導入とトップブランド戦略）、スマート農林水産業の強化、農林水産業女子の働き方改革、東京オリ・パラに向けた GAP 認証取得、木材カスケード利用の推進、CLT の一層の推進、つくり育てる漁業の加速化、ジビエの振興

◎子育て・人財

若者の出会い・結婚支援の強化、妊娠・出産への支援充実、多様な保育サービス、こどもの居場所づくりの拡大、次期学習指導要領への対応、学力向上対策、小規模校の魅力化、キャリア教育、サテライトキャンパス、地方大学の振興

◎暮らしの安心

地域や職域における健康づくり、がん対策、障がい者の新規雇用創出、障がい者の工賃向上、あいサポート条例に基づく共生社会の推進、元気な高齢者の活躍の場の拡大、地域包括ケアシステムの充実、持続可能な医療保険制度の推進、第 30 回全国「みどりの愛護」のつどい開催に向けた機運醸成、「鳥取県美しい星空が見える環境の保全と活用に関する条例（仮）」施行に伴う地域の取組支援、事業系「食品ロス」削減によるゴミ減量・リサイクルの推進